

論文 (Original article)

森林総合研究所所蔵の小笠原諸島のコメツキムシ類について

楨原 寛^{1)*}・大平 仁夫²⁾

Notes on the elaterid-beetles from the Ogasawara Islands in the collection of Forestry and Forest Products Research Institute (FFPRI)

MAKIHARA Hiroshi^{1)*} and ÔHIRA Hitoo²⁾

Abstract

Taxonomical status and distribution of 10 elaterid-beetles from the Ogasawara Islands in the collection of Forestry and Forest Products Research Institute, were investigated. A new species and two new combinations are described and reported as follows:

Megapenthes makiharai Ôhira **sp. nov.**

Anchastus yamamotoi Ôhira → *Podeonius yamamotoi* (Ôhira) **comb. nov.**

Procaerus kusuii Ôhira → *Megapenthes kusuii* (Ôhira) **comb. nov.**

Platynychus adjutor Candèze → *Displatynychus* sp. (Closely allied to *D. tamurai* from the Ryukyu Islands)

Key words : elaterid-beetles, Ogasawara Islands, morphological characters, taxonomical status

要旨

小笠原諸島で採集されたコメツキムシ科の甲虫類 10 種の分類上の位置や分布などを検討した。その結果、オガサワラアシトコメツキ (*Podeonius yamamotoi*) とオガサワラホソクシコメツキ (*Megapenthes kusuii*) の 2 種については属の所属を変更した。*Displatynychus* sp. については、従来ここから記録されてきたアカシハナコメツキ (*Platynychus adjutor*) とは雄交尾器の形態が相違しており、琉球産のタムラハナコメツキ (*D. tamurai*) にきわめて近い種であることが判明した。また、オガサワラツヤケシコメツキ (*Megapenthes makiharai*) は学会未知の種であることが判明したので大平の責任で新名を付して新種として記載した。

キーワード：コメツキムシ、小笠原諸島、形態、分類上の知見

はじめに

筆者の一人である楨原が中心になって、小笠原諸島における昆虫相の調査を多年に亘って続けてきたが、このたび、分類が難解なコメツキムシ類の整理ができたのでここに報告する。コメツキムシ類は農林業害虫も含むが、大半は捕食性で、特にカミキリムシなどの材穿孔性昆虫の天敵としてよく知られている(大平, 1998)。従来、小笠原諸島より 15 種が記録(加藤, 1991; 大平, 1996b)されているが、分類学的な整理は不十分であった。ここに記録したのは 10 種ではあるが、1 新種も含まれ、従来の分類とは異なる新知見も得られたので、これらについてもここに整理して報告した。本報告が今後、この諸

島のコメツキムシ相のより詳しい解明に役立てば幸いである。

なお、採集データの後に (M) とあるのは、マレーズトラップで捕獲された個体である。

本報告を草するにあたり、資料の収集に協力いただいた福井市の井上重紀氏、独立行政法人森林総合研究所の北島博主任研究官、牧野俊一研究領域長、後藤秀章研究員、静岡県林業技術センターの加藤徹研究員、さらに調査に際して多大な便宜をはかっていただいた小笠原村の延島冬生氏、小笠原野生生物研究会の安井隆弥氏および国有林課の方々に心から感謝の意を表したい。

原稿受付：平成 16 年 12 月 6 日 Received Dec. 6, 2004 原稿受理：平成 17 年 2 月 1 日 Accepted Feb. 1, 2005

* 森林総合研究所海外研究領域 〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1

Department of Global Forest Research, Forestry and Forest Products Research Institute (FFPRI), 1 Matsunosato, Tsukuba, Ibaraki 305-8687, Japan; e-mail: makihara@ffpri.affrc.go.jp

1) 森林総合研究所海外研究領域 Department of Global Forest Research, Forestry and Forest Products Research Institute (FFPRI)
2) 岡崎市在住

種の解説

1. *Tetrigus kusuii* Ôhira, 1974 オガサワラクシヒゲコメツキ (Figs. 1C, 5E, F)

Tetrigus kusuii Ôhira, 1974, Kontyû, Tokyo, 42(1): 24 (Is. Chichi-jima).

Tetrigus kusuii: 鈴木, 1981, 月刊むし, (130): 8 (母島); 大平・栗原, 2002, 甲虫ニュース, (137): 13-15 (父島: 幼虫); 刈部ほか, 2004, 神奈川県博調査研報 (自然), (12): 73 (弟島).

Tetrigus lewisii: Monzen, 1950 (Chichijima Is.); 中根, 1970 (父島).

検視標本: 【母島】 3 ♂♂, 3 ♀♀, 1-8.VII.1986, H. Makihara leg.

本種は父島で採集された標本に基づいて Ôhira(1974) が新種として記載した種であるが母島での記録は少ない。古い記録で Monzen(1950) や中根 (1970) が父島から *T. lewisii* (Candèze, 1867) として記録しているのは本種のことだと思われる。また、van Zwaluwenburg(1957) は父島の Sakaiura で採集 (VI-1949) された個体を *T. lewisi* [sic] として記録している。

体長は普通 19 - 25 mm であるが、雌では 28 mm に達する個体もある。原記載では雄の体長は 16 mm、雌では 22 mm であったことを記録している。形態は本州などに広く分布する *T. lewisii* に類似しているし、Palau 諸島に分布する *T. palauensis* van Zwaluwenburg, 1940 とも類似している。

体は幅広く、両側は平行状、翅端近くで湾曲して末端の細まりは弱い (Fig. 1C)。頭部の前頭部は扁平状で、前頭横隆線は横位の切断状である。また、前胸背板は短大で、両側の後半は平行状である (Fig. 1C)。雄触角の第 3-7 節は図示したように、第 3 節は短小で長さより幅広く、第 2 節よりも短い。第 4 節から顕著に櫛歯状を呈し、第 4 節と 5 節はほぼ等長である (Fig. 5E)。雄交尾器の中央突起は短大で、末端はほぼ三角状である。また、側突起末端の三角状部は、長さよりやや幅広く、外縁角は細まって後外方に鋭く尖る (Fig. 5F)。

幼虫は大平・栗原 (2002) が報告しており、各種枯木の本質部に入り、カミキリムシなどの幼虫や蛹を捕食する。

分布: 父島、弟島、母島。

2. *Cryptalaus larvatus pini* (Lewis, 1894) フタモンウバタマコメツキ (Figs. 1A, 5C, D)

Alaus pini Lewis, 1894, Ann. Mag. nat. Hist., (6), 13: 30 (Nagasaki, Kumamoto, Konose and Hagi).

Alaus putridus: Miwa, 1934, Dept. Agr. Gov. Res. Inst. Formosa, (65): 72 (Is. Chichi-jima).

Cryptalaus larvatus pini: 大平, 1990, 月刊むし, (234): 19-21.

Cryptalaus larvatus larvatus: 刈部ほか, 2004, 神奈川県博調査研報 (自然), (12): 73 (父島、母島).

検視標本: 【母島】 1 ♂, 1 ♀, 1-8.VII.1986, H. Makihara leg.; 1 ♀, Kohmoridani, 4-10.X.1999, H. Kitajima leg. (M)

本種は小笠原諸島では早くから知られていて、古い記録では *Alaus putridus* Candèze, 1857 としているものが多い。*A. putridus* の実態については大平 (1971a, b) が報告している。また、属名は最近、大平 (1990) が示した *Cryptalaus* 属が正しい。

今回、検した個体は、体長 22 mm と小形で、体の両側は後方に緩く細まり、翅端部は斜めに切断状で、外縁角は顕著に尖る (Fig. 1A)。雄触角の第 3 節は 2 節の約 2 倍の長さで、第 4 節は 3 節の約 1.4 倍である (Fig. 5C)。また、雄交尾器の背面からの外形を Fig. 5D に示す。

本種の亜種 *pini* と原名亜種 *larvatus* (原産地は中国) との関係については今後の詳しい調査が必要である。本種の幼虫は枯木 (根株も含め) の比較的厚い樹皮下に入り、捕食性である。また、皮付き材と共に人為的に運ばれることも知られている。小笠原諸島では有人島である父島、母島からのみ発見されているので、外部から人為的に運ばれてきた可能性が高い。成虫の外形や翅端部の切断形態から見ると、本州から琉球列島北部に分布する個体に最も類似している。

分布: 本州、四国、九州、琉球列島、小笠原諸島 (父島、母島)。

3. *Lacon (Alaotypus) boninensis* (Ôhira, 1970) オガサワラサビコメツキ (Figs. 1B, 5G-L)

Alaotypus boninensis Ôhira, 1970, GENSEI, (21): 11, figs. 1-2 (Is. Chichi-jima and Is. Haha-jima).

Lacon (Alaotypus) boninensis: Ôhira, 1977, Check-list of Col. Japan, (11): 7 (Is. Chichi-jima and Is. Haha-jima); W. Suzuki, 2001, Elytra, Tokyo, 29(2): 422 (Is. Otouto-jima).

Adelocera maklini: Miwa, 1934, Emp. Dept. Agr. Gov. Res. Inst. Formosa, (65): 66.

検視標本: 【母島】 1 ♂, 3 ♀♀, 16-18.V.1984, H. Makihara leg.; 1 ♀, Mt. Kuwanoki-yama, 27.VI.1996, H. Kitajima leg.; 1 ♂, 1-8.VII.1986, H. Makihara leg.

本種は父島と母島から採集された個体に基づいて大平 (1970) が新種として記載した。また、Miwa(1934) が *Adelocera maklini* Candèze, 1865 として父島から記録している種は本種であると思われる。その後、Suzuki (2001) は弟島にも分布していることを報告している。

この属の種は幼虫が枯木の内部に生息し、捕食性である。大平・楠井 (1975) は父島と母島では本種の個体数が多く、夜間灯火に飛来し、日中は樹皮下に潜っていると記述している。

体長は 17 - 22 mm で、一般に雌は雄より大形である。前胸背板両側の後半部は平行で後角は後方に鋭く尖る (Fig. 5I)。頭部の前頭部は三角状に窪み、前頭横隆線の内側部は顕著に扁平状である (Fig. 5G)。触角の第 3 節

は弱い倒円錐状で、第4節から鋸歯状を呈し、第4節は3節よりやや短い (Fig. 5L)。前胸腹板突起は前肢基節腔を越えて直線上に後方に伸張し、末端近くで段刻は生じない (Fig. 5H)。雄交尾器の背面からの外形を Fig. 5J, K に示す。中央突起は側突起より短小で、末端に漸次細まる。また、側突起末端の三角形状部は幅より長く、外縁は強く内方に湾曲し、外縁角は鋭く後外方に尖る。

本種の外部形態は本州に分布する *L. (A.) maeklinii* (Candèze, 1865) オオサビコメツキよりも、伊豆諸島に分布する *L. (A.) maenamii* (Ôhira, 1989) マエナミサビコメツキにより類似している。また、琉球列島に分布する *L. (A.) yayeyamanus* (Miwa, 1934) ヤエヤマサビコメツキにも類似している。

分布：父島、弟島、母島。

4. *Ischiodontus longfordi* (van Zwaluwenburg, 1957) オガサワラヒラアシコメツキ (Figs. 1E, 3I-P)

Propsephus longfordi van Zwaluwenburg, 1957, Ins. Micronesia, 16(1): 14 (Is. Chichi-jima and Is. Haha-jima).

Propsephus longfordi: 中根, 1977, 小笠原諸島の昆虫類: 24 (婿島); 刈部ほか, 2004, 神奈川県博研報 (自然), (12): 74 (父島、弟島、母島); 鈴木, 2004, 甲虫ニュース, (146): 8 (北硫黄島)。

Ischiodontus longfordi: 大平, 1998, 月刊むし, (321): 18 (父島、母島)。

検視標本:【父島】5♂♂, Mt. Coffee, 23.VI.1997, H. Makihara leg.(M);【母島】3♀♀, 9-12.VII.1983, H. Makihara leg.; 7♂♂, 10♀♀, 1-8.VII.1986, H. Makihara leg.; 1♀, 14-20.IV.1993, H. Makihara leg.; 4♂♂, 23.VI.1996, H. Kitajima leg.; 4♂♂, 3♀♀, Mt. Kuwanoki-yama, 19.VI.1997, H. Makihara leg.; 3♂♂, 2♀♀, kimura, 19.VI.1997, H. Makihara leg.; 4♂♂, Sekimon-iriguchi, 15-21.VII.1998, H. Kitajima leg.(M); 3♀♀, Funamidai, 4-10.X.1999, H. Kitajima et T. Goto leg.(M)。

本種は van Zwaluwenburg(1957) によって *Propsephus* 属の新種として父島と母島から記載されたが、大平(1998)は *Ischiodontus* 属に所属する種とした。また、本種の幼虫が枯木の内部に入り、カミキリムシやクワガタムシ類の幼虫を捕食することを幼虫の形態と共に大平(1998)が明らかにしている。

雄の体長は 8 - 12 mm で変異が大きい。体は黒色で光沢を有し、触角と肢は黄褐色であり、体表面には黒色毛を生じる (Fig. 1E)。触角は細長く、第3節から顕著に鋸歯状を呈し、前胸背板の後角より末端3節が後方に伸長する。触角の第3節は4節よりやや短い (Fig. 3O)。頭部の前頭横溝は明瞭で、その前縁は弧状を呈する (Fig. 3L)。また、前胸腹板は二重線状で前端部は凹溝状である。前胸背板は長さより幅広く、背面の点刻は小形でまばらに印する (Fig. 3I)。前胸腹板突起は太短く、末端

近くで直角状の段刻を有する (Fig. 3J)。雄交尾器の背面からの外形は図示したように、側突起の末端部の三角状部は幅より細長く、末端は細まって尖る (Fig. 3M, N)。

雌の外形は雄に類似するが、一般により大形で、体長は 13 mm 内外で安定している。触角は短く、末端は前胸背板の後角よりも長い程度で、第3節からの鋸歯状もより弱い (Fig. 3K)。本種は雌雄共に肢の第2, 3跗節末端下側は顕著に膜状に進展するので、この諸島に分布する他の種とは容易に識別できる (Fig. 3P)。肢の爪は簡単である。

分布：婿島、父島、弟島、母島、北硫黄島。

5. *Podeonius yamamotoi* (Ôhira, 1996) comb. nov. オガサワラアシトコメツキ (Fig. 1D)

Anchastus yamamotoi Ôhira, 1996, Trans. Essa ent. Soc. Niigata, (76): 14 (Is. Chichi-jima and Is. Haha-jima)

検視標本:【母島】1♀, Mt. Kuwanoki-yama, 19.VI.1997, H. Makihara leg.; 1♂, Okimura, 19.VI.1997, H. Makihara leg.

本種は大平(1996b)が母島(1♂, 2♀♀)と父島(1♀)からの標本に基づいて *Anchastus* 属の新種として記載したが、原記載以降の記録は今回が最初である。また、本種は最近の知見に基づいて *Podeonius* 属に含めるのが適当と判断されるので、ここに属名の変更を行った。

小笠原諸島特産種で、今回の調査でも母島から雌雄各1個体が採集されたのみである。原記載でタイプ標本に指定したのは体長 7 - 9 mm の雌個体である。雄個体は破損していたので、分解図の形態を示しており、より詳しい形態は大平(1996b)を参照頂きたい。この度検したのは雄が体長 6.5 mm、雌 7 mm で小形であるが、一般形態は雄交尾器を含め、タイプ標本によく一致した。雄全形図を示すのは、今回が最初である。

体は黒色で光沢を有し、触角と肢は黄褐色である (Fig. 1D)。雄の触角は比較的短く、末端は前胸背板の後角よりやや長い程度で、第2節は短小で幅よりやや長く、第3節から鋸歯状で、第3節は4節よりやや短い。前胸背板は台形状で、各後角背面には2本の隆起線を有する。肢の第3跗節の末端下側は膜状に進展し、爪は簡単である。雌は雄に類似するが、触角はより短く、末端は前胸背板の後角に達しない。

分布：父島、母島。

6. *Megapenthes kusuii* (Ôhira, 1973) comb. nov. オガサワラホソキコメツキ (Fig. 3A-H)

Procrærus (Procrærus) kusuii Ôhira, 1973, Kontyû, Tokyo, 41(3): 327 (Is. Chichi-jima).

Procrærus kusuii: 鈴木, 2003, 神奈川県博調査研報 (自然), (143): 28 (母島); 刈部ほか, 2003, 神奈川県博調査研報 (自然),

(12): 74 (弟島、西島、母島) .

検視標本：【母島】4 ♂♂, 1 ♀, Funamidai, 19. VI. 1997, H. Makihara leg.(M); 8 ♂♂, 13 ♀♀, Mt. Kuwanoki-yama, 19. VI. 1997, H. Makihara leg.(M); 3 ♂♂, 6 ♀♀, Okimura, 19. VI. 1997, H. Makihara leg.(M); 1 ♀, Minamizaki, 15-21. VII. 1998, H. Kitajima leg. (M).

本種は Ôhira(1973) が雌 1 個体に基づいて *Procræus* (*Procræus*) *kusuii* オガサワラホソキコメツキと命名し、新種として記載した体長 5 mm の黄褐色をした小形の種である。大平・楠井(1975) は「体は黄褐色で頭部と前胸背板はやや濃色、触角は暗褐色で肢は黄褐色である。また、触角は雌雄とも前胸背板の後角より長く、雌では著しく細長い」としており、アデク *Syzygium buxifolium* やヒメツバキ *Schima mertenciana* の花上や灯火にも飛来するとしている。その後、刈部ほか(2004) により弟島、西島、母島からも記録されている。

今回の調査で本種に類似した種(後述の新種) が分布することが判明したが、刈部・高桑(2004) はこの未記載種を本種として原色で図示している。これは恐らく大平・楠井(1975) が雌雄とも触角が長いと誤記したことが原因と思われる。今回の調査では雌雄とも多数の個体を検視したが、雌の触角は短く、末端は前胸背板の後角にかろうじて達する程度しかないことが判明した。また、雄交尾器をはじめ各部の形態を再検討した結果、本種は *Procræus* 属ではなく、*Megapenthes* 属に所属させた方がより正しい分類学的位置であると判断されたので、その種名を上記のようにした。

雄の体長は 4.5 mm 内外。体は細長くて両側は平行状である (Fig. 3A)。光沢はやや鈍く、黄褐色を呈し、頭部は暗褐色である。ときには前胸背板や上翅も暗色を呈する。頭部は複眼が大きく前頭部はやや粗雑点刻を不規則に生じ、前頭横隆線の前縁中央部はやや下方に湾曲する (Fig. 3D)。触角は細長く、末端は前胸背板の後角より末端 2.5-3 節ほど後方に伸張し、第 2,3 節は短小でほぼ等長、第 4 節から鋸歯状を呈し、第 4 節は 3 節の約 2.5 倍の長さである (Fig. 3B)。前胸背板は円筒形状で背面は膨隆し、全面に円形状の点刻を分布し、点刻と点刻間との表皮面は鮫肌状である (Fig. 3E, H)。交尾器の中央突起の背面からの外形の末端は細まって尖る (Fig. 3F)。

雌の触角の第 2-4 節の外形を Fig. 3C に示す。

分布：父島、弟島、西島、母島。

7. *Megapenthes makiharai* Ôhira sp. nov. オガサワラツヤケシコメツキ (新称) (Fig. 4A-M)

雄 (Fig. 4A) の体長は 6.5 mm 内外。体は細長くて両側は平行状。橙黄色を呈するが、体色は変異があり、通常は頭部の前頭横隆線の周辺を除く大部分、前胸背板の周辺部と後角、上翅の会合線部を除く大部分は暗褐～黒褐色を呈する。触角は暗褐色で肢は橙黄色である。前胸背板は円筒形状で、光沢はやや鈍く、体毛は褐色の針状

である。

触角は細長く、末端は前胸背板の後角より末端 2.5 節ほど後方に伸張、第 2, 3 節は短小でほぼ等長、第 4 節より鋸歯状で、第 4 節はこれら第 2, 3 節を合わせた長さの約 1.7 倍である (Fig. 4J)。前胸背板は円筒形状で、表皮面は細かい顆粒状を呈して光沢は鈍い (Fig. 4G, H)。上翅の条線は深く印し、間室部の毛根部は隆起して不規則なしわ状である。交尾器の外形は図示したように、中央突起は細長く、末端は細まって細長く尖る (Fig. 4L)。側突起の末端部の外縁は湾曲し、末端は鈍く尖る (Fig. 4M)。

雌 (Fig. 4B) の体長は 7-8 mm で、一般に雄より大形である。触角は短く、末端は前胸背板の後角よりやや短く、第 2, 3 節は短小で、第 4 節はこれら 2 節を合わせた長さの約 1.4 倍である。

本種の一般外形は前述した *Megapenthes kusuii* オガサワラホソキコメツキに類似しているが、体はより大形で、体色もより濃色である。刈部・高桑(2004) にオガサワラホソキコメツキとして図示されている個体は、本種だと思われる。

分布：小笠原諸島 (父島、母島)。

Male. Length 6.5 mm, width about 1.5 mm. Body elongate, almost parallel-sided and normally convex above; surface rather shining, testaceous to dark brown except for head, disk of pronotum and most parts of elytra more or less darker, antennae and legs yellowish brown, vestitus fulvous and fine.

Head gently convex between eyes, flattened between antennae; surface moderately densely and evenly punctate; clypeal margin clearly ridged and rounded at middle (Fig. 4I). Antennae elongate, beyond posterior angles of pronotum at least by apical two and a half segments (Fig. 4A), 2nd segment subovate, 3rd subtriangular and almost as long as 2nd, from 4th to 10th weakly serrate in each (Fig. 4J).

Pronotum subcylindrical, clearly longer than widest at base across (Fig. 4G); disc dome-like, rather coarsely and densely punctate (Fig. 4H); posterior angles in lateral aspect distinctly bending inwardly just behind procoxae (Fig. 4C). Scutellum flattened and lingulate (Fig. 4D). Basal plates very broad, with each outer margin obtusely angulate at middle (Fig. 4E).

Elytra about 2.9 times as long as their basal width, with sides almost parallel in basal two-thirds, hence gradually convergent towards apices which are normally rounded; striae defined, deeply and regularly punctate; intervals rather flattened; irregularly granulated.

Male genitalia with median lobe narrow and parallel-sided on basal area, but clearly acuminate at apical portion; apical portions of lateral margins of each lateral lobe rounded and obtusely angulate (Fig. 4M).

Female. Length 7-8 mm. Similar to male in general structure, but body is robuster and antennae are shorter, not attaining to posterior angles of pronotum (Fig. 4B, K).

This new species is similar to *Megapenthes kusuii* (Ôhira, 1973) from the Ogasawara Islands, but can be distinguished from the latter by the larger body, darker pronotum and elytra, and the apical portion of each lateral lobes rounded apicad, but not pointed (Fig. 4M).

Type material. Holotype: ♂ (Type No. 13, FFPRI), Mt. Yoake-yama, Is Chichi-jima, 23.VI.1997, H. Makihara leg. Paratypes: 1 ♀, Mt Chibusaya-yama, Is. Haha-jima, 23.VI.1996, H. Kitajima leg.; 1 ♂, Is. Haha-jima, 27.VI.1996, S. Inoue leg.; 1 ♂, Funamidai, Is. Haha-jima, 19.VI.1997, H. Makihara leg.; 1 ♂, 2 ♀ ♀, Mt. Kuwanoki-yama, Is. Haha-jima, 19.VI.1997, H. Makihara leg.; 1 ♀, Ditto, 23.VI.1997, H. Makihara leg.; 1 ♂, Is. Chichi-jima, 3.VI.1982, H. Makihara leg.

Distribution. Ogasawara Islands (Is. Chichi-jima and Is. Haha-jima).

Type depository. The holotype and six paratypes are preserved in the collection of the Forestry and Forest Products Research Institute, and two paratypes are in Ôhira's collection.

8. *Haterumelater bifoveolatus* (Miwa, 1927) ツヤチャイロコメツキ (Figs. 1D, 2I-P)

Elater bifoveolatus Miwa, 1927, Ins. Mats., 2(1): 17 (Is. Chichi-jima).

Ampedus bifoveolatus: van Zwaluwenburg, 1957, Ins. Micronesia, 16(1): 37 (Is. Chichi-jima).

Hatermelater [sic] *bifoveolatus*: 大平, 1971, 昆虫と自然, 6(4): 22 (父島); 刈部ほか, 2004, 神奈川県博調査研報 (自然), (12): 74 (父島, 弟島, 兄島, 西島).

検視標本:【父島】1 ♀, Mt. Coffee, 23.VI.1997, H. Makihara leg.(M).【母島】1 ♀, 9-12.VII.1983, H. Makihara leg.; 1 ♀, 1-8.VII.1986, H. Makihara leg.; 1 ♂, 17.VI.1996, S. Inoue leg.; 1 ♀, 20.VI.1996, S. Inoue leg.; 1 ♀, Mt. Kuwanoki-yama, 19.VI.1997, H. Makihara leg.(M).

本種は父島において松村松年が採集 (1905-VIII) した個体に基づいて、Miwa(1927) により *Elater bifoveolatus* と命名、新種として記載された体長 11.5 mm の黒色をした種である。また、Dr. S. I. Kuwana (桑名伊之吉) が Bonins で採集した *Megapenthes japonicus* Fleutiaux, 1902 = *Haterumelater bicarinatus* (Candèze, 1873) に類似した標本が Paris の国立自然史博物館にあることを van Zwaluwenburg (1957) が報告している。本種はその後、大平 (1971a,b) が *Haterumelater* 属 (*Htermelater* は誤記) に移し、大平・鈴木 (1985) は父島からの個体を図示している。また、刈部・高桑 (2004) はこの学名で成虫図を原色で示している。

体長は 8 - 10 mm、体は黒色で光沢を有し、前胸背板はややオパール光彩を有する (Fig. 1D)。また、触角は

褐色で肢は黄褐色、体の背面は黒色毛を腹面は褐色毛を生じる。頭部の背面からの外形を Fig. 2P に示す。原記載では複眼間に 1 対の凹陷部を有するとあるが、きわめて判然としない凹状部が存在するのみである。触角は第 3 節から鋸歯状を呈し、第 2 節は短小で、第 3 節は 4 節よりやや短い (Fig. 2O)。前胸背板は台形状で、幅と長さはほぼ等しい (Fig. 2I)。前胸腹板突起は、前肢基節腔を越えてやや顕著に内方に湾曲して後方に伸張する (Fig. 2J)。雄交尾器の背面からの外形は図示 (Fig. 2M) したように、中央突起は側中央突起の末端よりも著しく長い。側突起の末端部の三角状部は図示 (Fig. 2N) したように、外縁は内方に湾曲して外縁角に伸びる。また、外縁角には数個の段刻を生じる。

雌の触角は雄より短小で、第 3 節からの鋸歯状もより弱い (Fig. 2K)。内部生殖器の子宮 (Colleotrium) 内部に規則的に生じる鋸状の硬片の一部を Fig. 2L の矢印で示す。

本種は本州や琉球列島に広く分布する *Haterumelater bicarinatus* (Candèze, 1873) にきわめて類似しており、これの別亜種の可能性もあるが、ここでは従来そのまま記録することにする。

分布: 父島、弟島、兄島、西島、母島。

9. *Priopus boninensis* (van Zwaluwenburg, 1957) オガサワラホソクシコメツキ (Figs. 1F, 2A-H)

Neodiploconus boninensis van Zwaluwenburg, 1957, Ins. Micronesia, 16(1): 65, figs. 10, 12a (Is. Haha-jima and Is. Muko-jima); 大平・楠井, 1975, Elytra, Tokyo, 2(2): 20 (父島、母島) .

Priopus boninensis: 大平, 1997, 月刊むし, (321): 29 (父島、母島、婿島); 刈部ほか, 2004, 神奈川県博調査研報 (自然), (12): 174 (父島、母島、北硫黄島) .

検視標本:【父島】1 ♂, 21.VI.1996, S. Inoue leg.;【母島】2 ♀ ♀, 9-12.VII.1983, H. Makihara leg.; 16 ♂ ♂, 17 ♀ ♀, 1-8.VII.1986, H. Makihara leg.; 1 ♂, Mt. Kuwanoki-yama, 27.VI.1996, H. Kitajima leg.(M); 2 ♂ ♂, 27-28.VI.1996, S. Inoue leg.; 3 ♂ ♂, Mt. Kuwanoki-yama, 19.VI.1997, H. Makihara leg.(M); 11 ♂ ♂, 3 ♀ ♀, Okimura, 19.VI.1997, H. Makihara leg.(M); 1 ♂, 1 ♀, 20.VI.1997, S. Inoue leg.; 1 ♂, 9 ♀ ♀, Minamizaki, 15-21.VII.1998, H. Kitajima leg.(M); 2 ♂ ♂, 7 ♀ ♀, Mt. Kuwanoki-yama, 15-21.VII.1998, H. Kitajima leg.(M); 4 ♂ ♂, 6 ♀ ♀, Sekimon-iriguchi, 15-21.VII.1998, H. Kitajima leg.(M); 2 ♂ ♂, Mt. Kuwanoki-yama, 20-21.VII.1998, H. Kitajima leg.(M); 1 ♀, Minamizaki, 5-10.X.1999, H. Kitajima et T. Goto leg.(M).

本種は van Zwaluwenburg(1957) が母島からの個体に基づいて新種として記載した種である。原記載以降、本種は婿島、父島、北硫黄島でも生息が確認され、小笠原諸島に広く分布している。成虫の一般形態は大平・楠井 (1975) や Ôhira(1977) にも報告がある。

雄の体長は9 - 11 mm、体は細長く、黒～黒褐色で光沢を有し、触角と肢は赤褐色である (Fig. 1F)。頭部の複眼は大きく、前頭横隆線はよく発達し、前縁は弧状を呈する (Fig. 2G)。触角は細長く、末端は前胸背板の後角より末端2～2.5節ほど後方に伸長、第2, 3節は短小でほぼ等長、第4節から鋸歯状を呈し、第4節は2, 3節を合わせたものよりも明らかに長い (Fig. 2H)。前胸背板は台形状で幅よりも長く、後角は後外方に尖り、各背面に2本の隆起線を有する (Fig. 2A)。前胸腹板突起は、前肢基節腔を越えて、直線状に後方に伸長し、末端近くで明瞭な段刻を生じる (Fig. 2B)。小盾板は扁平で矩形状である (Fig. 2C)。雄交尾器の背面からの外形は図示 (Fig. 2E) したように、中央突起は側突起末端より著しく細長く、末端は三角状に細くなる。また、側突起の末端の三角状部の幅と長さはほぼ等しく、外縁角は鋭く後外方に尖る (Fig. 2F)。肢の爪の櫛歯の数は各7本である (Fig. 2D)。

肢の爪が櫛歯状を呈することから、本属の一般外形は *Melanotus* 属に近縁と思われるが、大平 (1996a) が指摘したように、幼虫の形態は著しく異なっており、系統的には別のものと考えられる。

分布：婿島、父島、母島、北硫黄島。

10. *Displatynychus* sp. ヒメハナコメツキの1種 (Fig. 5A, B)

検視標本：【父島】1♂, 3-6.VI.1982, H. Makihara leg.

この諸島からのハナコメツキ亜科 (Cardiophorinae) の種は、最初に van Zwaluwenburg (1957) が *Platynychus adjutor* (Candèze, 1873) を?印を付して、父島で1925年5月に採集された個体を「It is obviously an immigrant into Bonins」とコメントをつけて記録している。その後、中根 (1970) がこの記録を引用している程度で、小笠原諸島ではきわめて希少な種のように思われるが、実態はまだ不明な点が多い。

今回検した父島産の雄個体の交尾器形態 (Fig. 5B) は、琉球列島に分布する *Displatynychus tamurai* (Kishii, 1974) タムラハナコメツキにきわめて類似していた。琉球列島産のこの種については大平 (1999) が、本州産の亜種 (*Platynychus adjutor tamurai*) ではなく、独立種であることを、詳しい形態を示して明らかにしている。しかし、今回調べたのは雄1個体のみであるのと、この属の種の同定には雌の内部生殖器の形態も併せて調べる必要があるため、種名の確定は今後の研究で明らかにしたいと考えている。いずれにしても、従来の種 (*Platynychus adjutor*) ではないことは確かである。ハナコメツキ亜科の幼虫は土中に生息するので、植物の根株などに混入して人為的に琉球列島あたりから持ち込まれた可能性も考えられる。

分布：父島。

引用文献

- 加藤 真 (1991) 小笠原諸島産昆虫目録. 小笠原研究, (17/18), 32-59.
- 刈部治紀・高桑正敏 (2004) 小笠原昆虫図鑑・東洋のガラパゴス小笠原—固有生物の魅力—, (神奈川県立生命の星・地球博物館), 79-98.
- 刈部治紀・高桑正敏・須田真一・松本浩一・岸本敏郎・中島直子・長瀬博彦・鈴木 互 (2004) 神奈川県立生命の星・地球博物館が行った1997-2003年の調査で得られた小笠原の昆虫目録. 神奈川県博調査研報 (自然), (12), 65-86.
- Miwa, Y. (1927) Descriptions of new species of Japanese Empire, *Ins. Mats.*, **2**(1), 12-22.
- Miwa, Y. (1934) The fauna of Elateridae in the Japanese Empire, *Dept. Agr. Gov. Res. Inst. Formosa*, (65), 1-289, 9 pls.
- Monzen, K. (1950) A revision of the insect-fauna of the Bonin Islands, with some unrecorded species, *Gakugei Soc. Iwate Univ.*, **2**, 21-33.
- 中根猛彦 (1970) 小笠原諸島の昆虫類, 小笠原の自然 (小笠原諸島の学術・天然記念物調査報告書, 文部省), 15-32.
- 大平仁夫 (1970) 小笠原諸島から採集されたコメツキムシ科の1新種, *GENSEI*, (21), 9-12.
- 大平仁夫 (1971a) 日本産コメツキムシ科の知見 (IX), *New Entomol.*, **20**(2/3), 1-6.
- 大平仁夫 (1971b) 日本のコメツキムシ (VIII), *昆虫と自然*, **6**(4), 21-27.
- Ôhira, H. (1973) New or little-known Elateridae from Japan, *XVII (Coleoptera)*, *Kontyû, Tokyo*, **41**(3), 326-329.
- Ôhira, H. (1974) New or little-known Elateridae from Japan, *XVIII (Coleoptera)*, *Kontyû, Tokyo*, **42**(1), 24-28.
- Ôhira, H. (1977) Check list of Col. Japan, (11), *Elateridae*, *Coleopt. Assoc. Japan, Tokyo*, 1-7.
- 大平仁夫 (1990) ウバタマコメツキ属とその近縁属について, *月刊むし*, (234), 19-21.
- 大平仁夫 (1996a) イシガキホソクシコメツキの幼虫について, *Elytra, Tokyo*, **24**(1), 97-101.
- 大平仁夫 (1996b) 日本産アシプトコメツキ類について, *越佐昆虫同好会報*, (76), 1-14.
- 大平仁夫 (1998) オガサワラヒラアシコメツキについて, *月刊むし*, (326), 17-19.
- 大平仁夫 (1999) 日本産ヒメハナコメツキ属の種について, *比和科学博物館研報*, (38), 357-362, 2 pls.
- 大平仁夫・楠井善久 (1975) 小笠原諸島のコメツキムシについて, *Elytra, Tokyo*, **2**(2), 17-21.

- 大平仁夫・栗原桂一 (2002) オガサワラクシヒゲコメツ
キの幼虫の形態, 甲虫ニュース, (137), 13-15.
- 大平仁夫・鈴木 互 (1985) コメツキムシ科, 原色日本
昆虫図鑑 (III) (黒沢良彦・久松定成・佐々治寛之監
修), 保育社, 53-92, pls. 10-15.
- Suzuki, W. (2001) Two elaterid beetle collected from
Otout-jima Island of the Ogasawara Islands, Japan.
Elytra, Tokyo, **29**(2), 422.
- van Zwaluwenburg (1940) New species and new records
of Elaterid beetles from the Pacific, Occ. Pap. Bern. P.
Bishop Mus., **16**(5), 91-130.
- van Zwaluwenburg (1957) Insects of Micronesia. Coleoptera:
Elateridae. Emice P. Bishop Mus., **16**(1), 1-166.

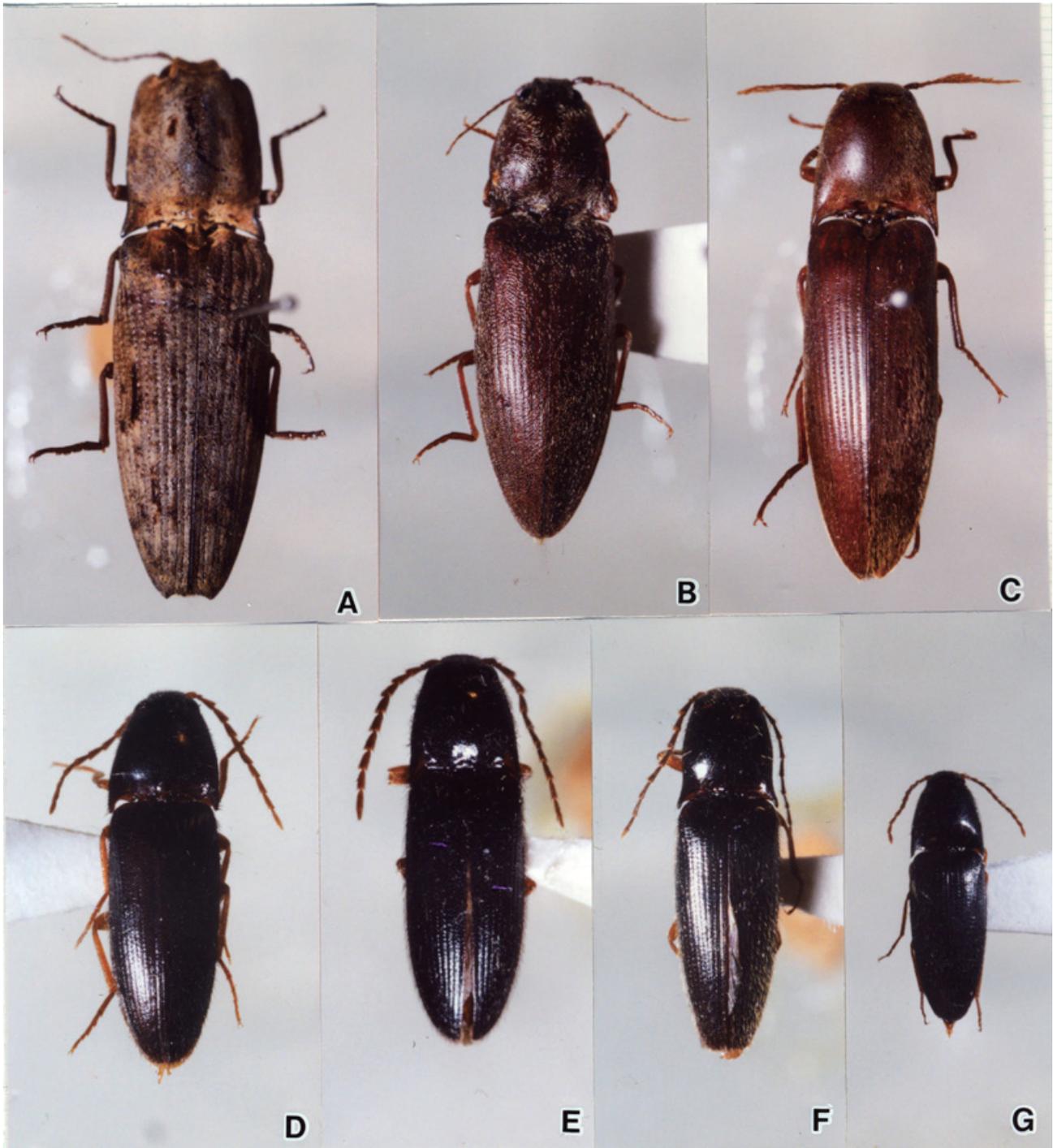


Fig. 1. A, フタモンウバタマコメツキ, ♂, 体長 25 mm (母島産); B, オガサワラサビコメツキ, ♂, 体長 19 mm (母島産); C, オガサワラクシヒゲコメツキ, ♂, 体長 27 mm (母島産); D, ツヤチャイロコメツキ, ♂, 体長 11 mm (母島産); E, オガサワラヒラアシコメツキ, ♂, 体長 11 mm (母島産); F, オガサワラホソクシコメツキ, ♂, 体長 10 mm (母島産); G, オガサワラアシプトコメツキ, ♂, 体長 7 mm (母島産).

A, *Cryptalaus larvatus pini*, ♂, body length 25 mm (Is. Haha-jima); B, *Lacon (Alaotypus) boninensis*, ♂, body length 19 mm (Is. Haha-jima); C, *Tetrigus kusuii*, ♂, body length 27 mm (Is. Haha-jima); D, *Haterumelater bifoveolatus*, ♂, body length 11 mm (Is. Haha-jima); E, *Ischiodontus longfordi*, ♂, body length 11 mm (Is. Haha-jima); F, *Priopus boninensis*, ♂, body length 10 mm (Is. Haha-jima); G, *Pondeonius yamamotoi* **comb. nov.**, ♂, body length 7 mm (Is. Haha-jima).

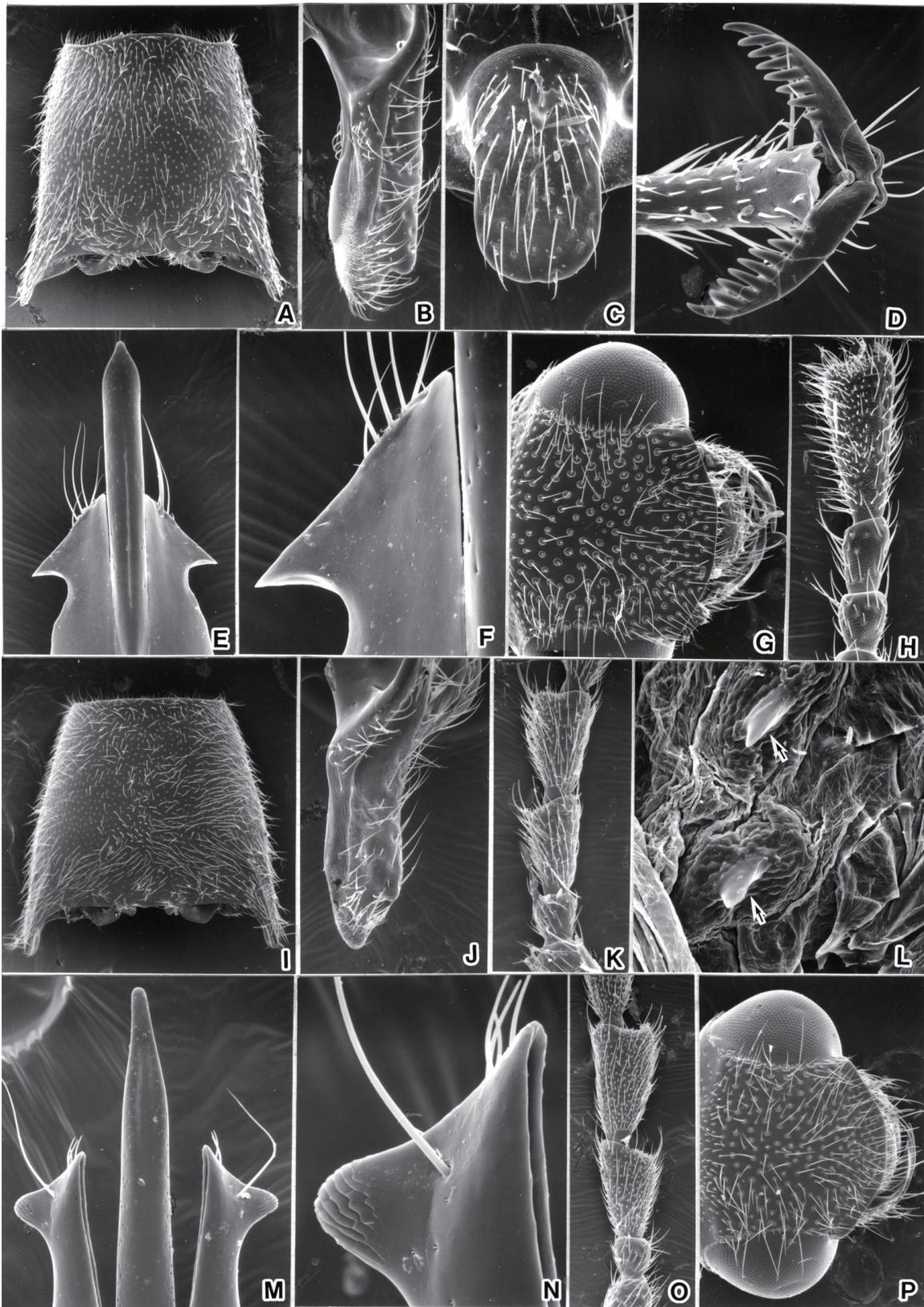


Fig. 2. A-H, オガサワラホソクシコメツキ(母島産)とI-P, ツヤチャイロコメツキ(母島産)の形態, KとLは♀, その他は♂. A, I, 前胸背板; B, J, 前胸腹板突起の側面; C, 小盾板; D, 後肢跗節の爪; E, F, M, N, 雄交尾器の末端節の背面; G, P, 頭部の背面; H, K, O, 触角第2-4節; L, 内部生殖器の硬片, ↑印.

Structure of *Priopus boninensis* (A-H) (Is. Haha-jima) and *Haterumelater bifoveolatus* (I-P) (Is. Haha-jima), male (except for K and L which are of a female).

A and I, pronotum, dorsal aspect; B and J, prosternal process, lateral aspect; C, scutellum; D, claw of hind leg; E, F, M and N, apical portion of male genitalia, dorsal aspect; G and P, head, dorsal aspect; H, K and O, 2nd to 4th segments of antenna; L, some sclerotized pieces in bursa copulatrix.

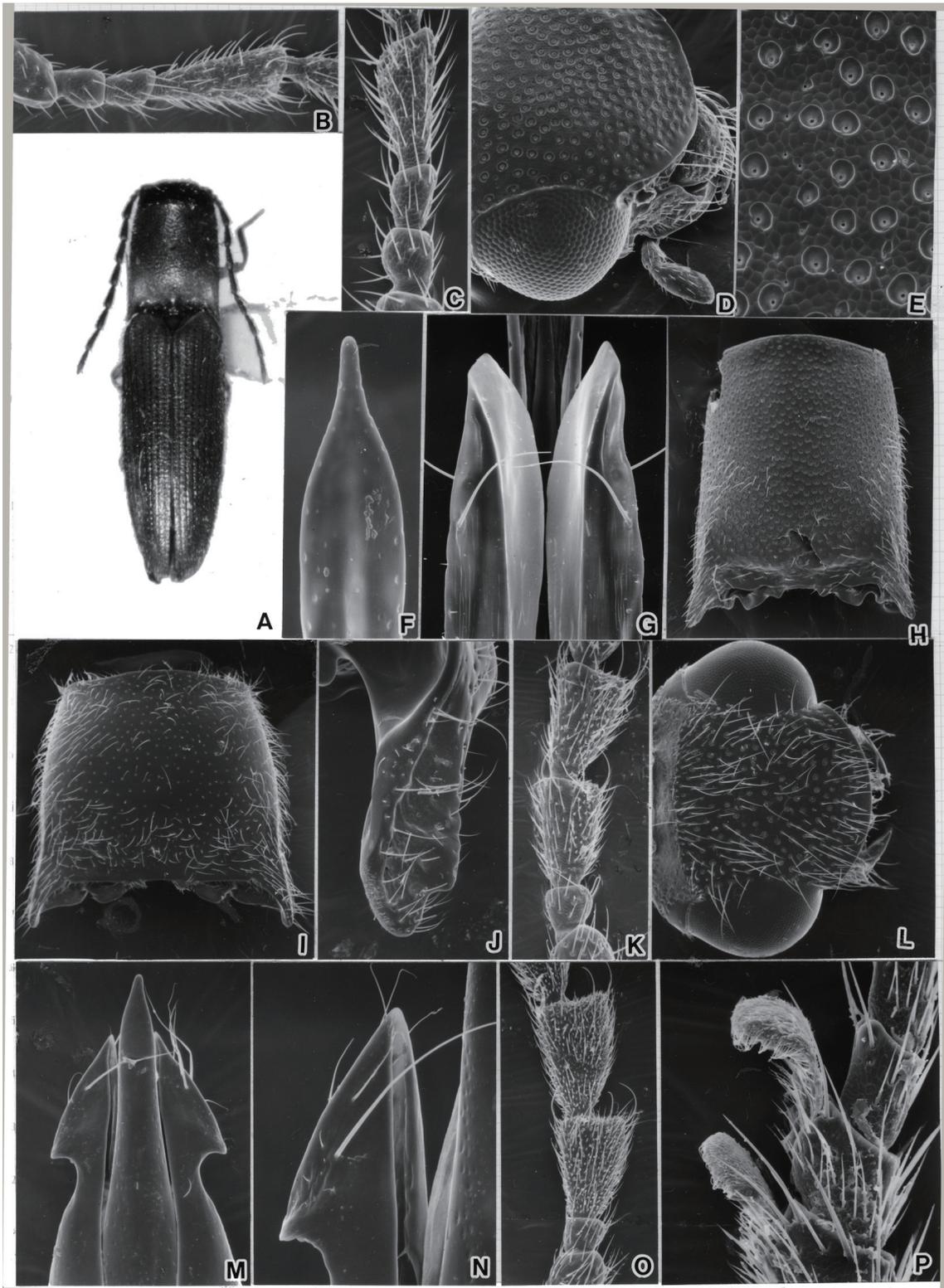


Fig. 3. A-H, オガサワラホソキコメツキ (母島産) と I-P, オガサワラヒラアシコメツキ (母島産) の形態, C と K は♀, その他は♂.

A, 成虫, 体長 5 mm; B, C, K, O, 触角の第 2-4 節; D, L, 頭部の背面 (D は側背面); E, 前胸背板状の点刻; F, G, M, N, 交尾器の末端部, 背面 (G は腹面); H, I, 前胸背板; J, 前胸腹板突起の側面; P, 後肢第 2-3 跗節.

Structure of *Megapenthes kusuii* comb. nov. (A-H) (Is. Haha-jima) and *Ischodontus longfordi* (I-P) (Is. Haha-jima), male (except for C and K which are of a female).

A, adult, body length 5 mm; B, C, K and O, 2nd to 4th segments of antenna; D and L, head, dorsal aspect (D, dorso-lateral aspect); E, some punctures on the disc of pronotum; F, G (venter), M and N, apical portion of male genitalia, dorsal aspect; H and I, pronotum, dorsal aspect; J, prosternal process, lateral aspect; P, 2nd and 3rd tarsal segments of hind leg.

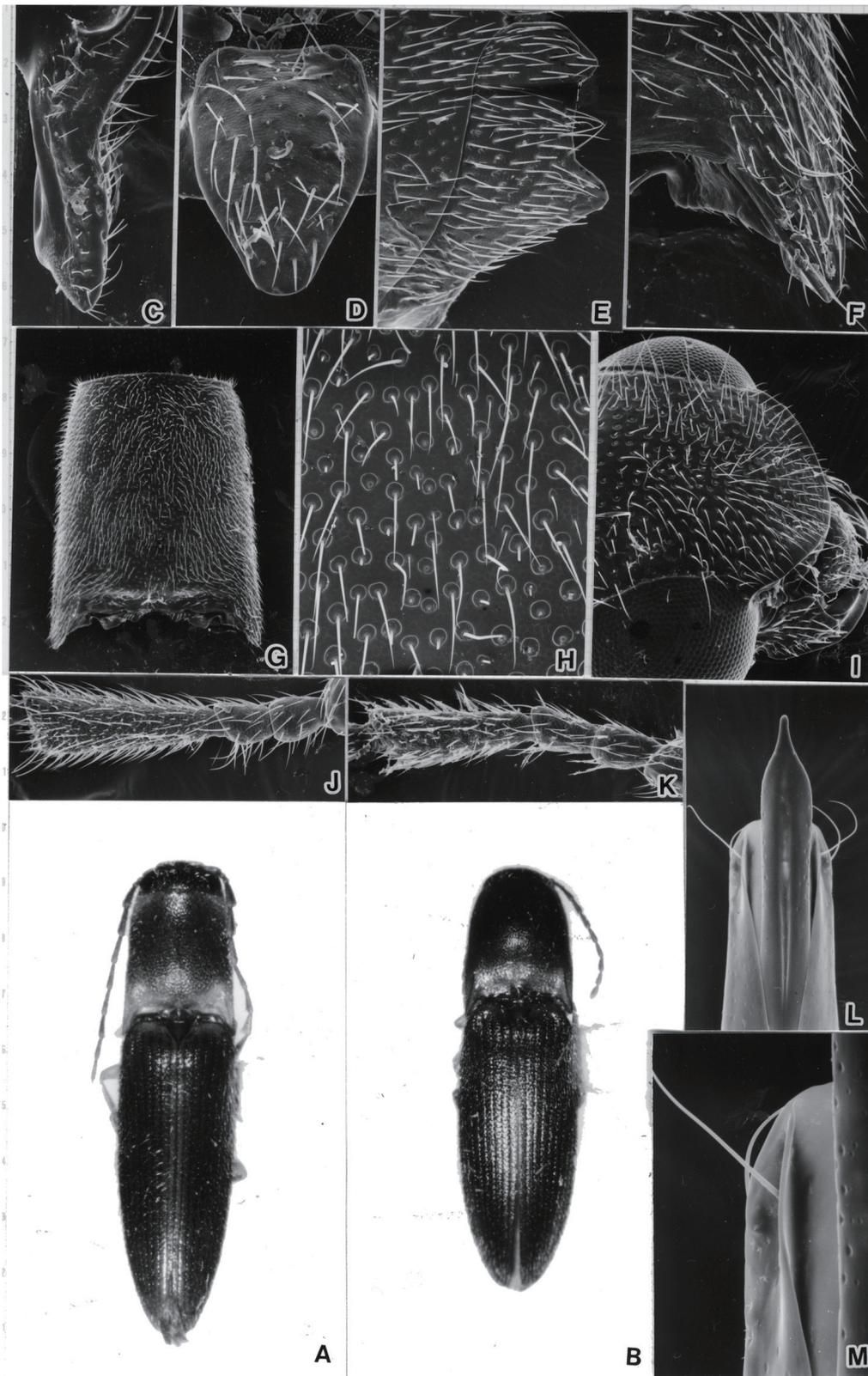


Fig. 4. *Megapenthes makiharai* Ôhira sp. nov. オガサワラツヤケシコメツキ (新称) (BとKは♀, 残りは♂) (母島産).
 A, 成虫, 体長 7 mm; B, 体長 8 mm; C, 前胸腹板突起, 側面; D, 小盾板; E, 右の腰板; F, 前胸腹板の右後角部; G, 前胸背板; H, 前胸背板上の点刻; I, 頭部の側背面; J, K, 触角の第 2-4 節; L, M, 交尾器の末端部, 背面.
 Some structure of *Megapenthes makiharai* Ôhira sp. nov., holotype, male (except for B and K which are of a female), one of paratypes (Is. Haha-jima).
 A, male, body length 7 mm; B, female, body length 8 mm; C, prosternal process, lateral aspect; D, scutellum, dorsal aspect; E, right basal plate, ventral aspect; F, right hind corner of pronotum; G, pronotum, dorsal aspect; H, some punctures on the disc of pronotum; I, head, dorso-lateral aspect; J and K, 2nd to 4th segments of antenna; L and M, apical portion of male genitalia, dorsal aspect.

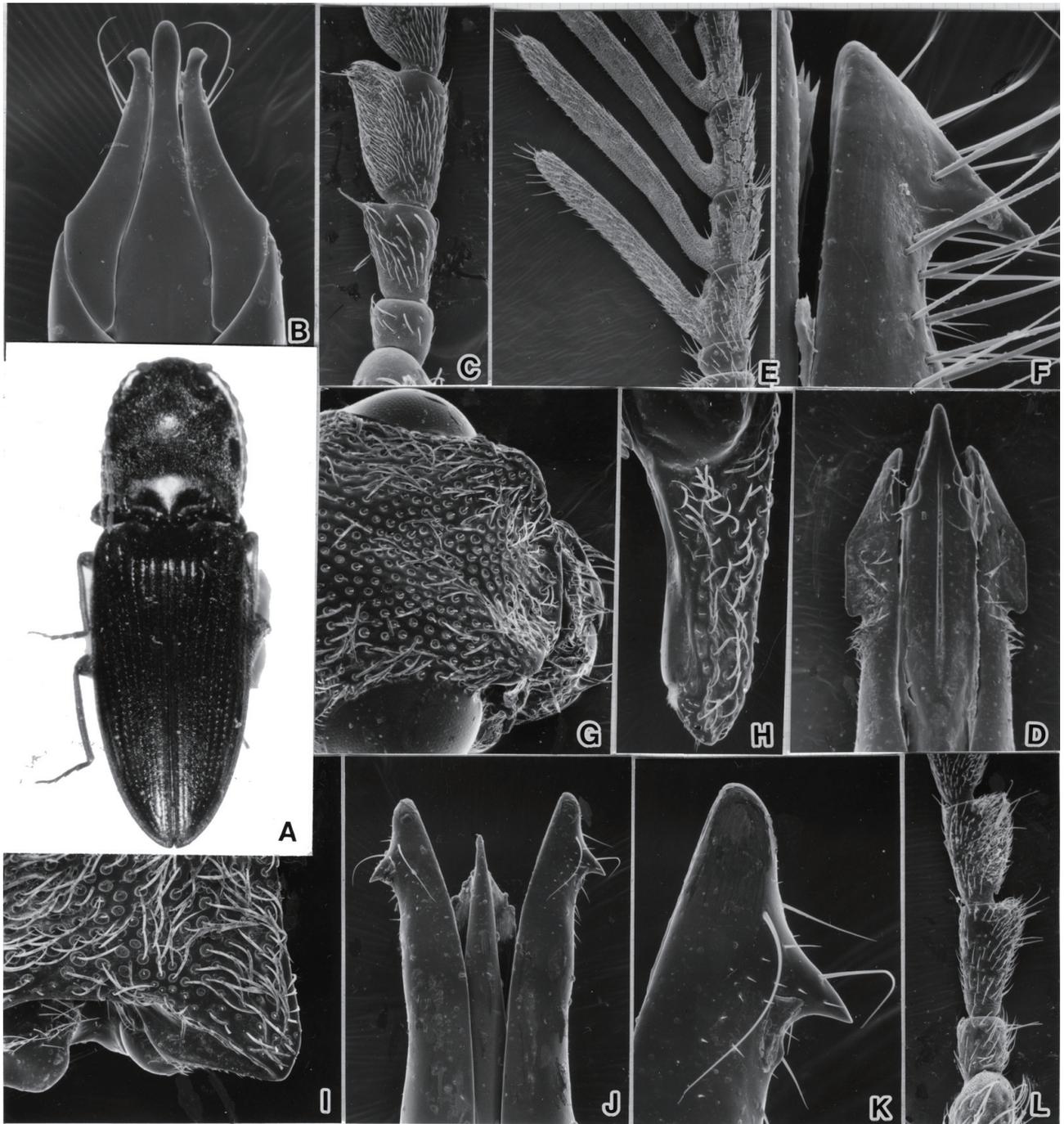


Fig. 5. A, B, ヒメハナコメツキの一種 (母島産) ; C, D, フタモンウバタマコメツキ (母島産) ; E, F, オガサワラクシヒゲコメツキ (母島産) ; G - L, オガサワラサビコメツキ (母島産) ; すべて♂.
 A, 成虫, 体長 9 mm ; B, D, F, J, K, 交尾器の末端部, 背面 ; C, E, L, 触角の基部節 ; G, 頭部の側背面 ; H, 前胸腹板突起の側面 ; I, 前胸背板の右後角部.
 A and B, *Displatynychus* sp., male (Is. Haha-jima) ; C and D, *Cryptalaus larvatus pini*, male (Is. Haha-jima) ; E and F, *Tetrigus kusuii* male (Is. Haha-jima) ; G-L, *Lacon (Alaotypus) boninensis*, male (Is. Haha-jima).
 A, adult, body length 9 mm ; B, D, F, J and K, apical portion of male genitalia ; C, E and L, some basal segments of male antenna ; G, head, dorso-lateral aspect ; H, prosternal process, lateral aspect ; I, right hind corner of pronotum, dorsal aspect.